

倫理哲学

Ethical Philosophy

薬：K1-13101MY、生命：K1-13101MS

素養科目 1、2、3 (薬)年／前・後期 1単位 選択科目

科目責任者 川北 晃司(倫理学研究室)

■教育目的

倫理と哲学に関わる思想を学ぶとともに、現代における環境倫理、青年の発達課題、幸福、個性、使命、生きがい、正義など、広範囲の応用哲学・倫理的なテーマを考察する。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-④、YD-⑤、SD-④、SD-⑤】

■学習到達目標

1. 倫理・哲学的な思想(家)・理論・課題について列挙できる(知識)
2. 倫理・哲学的な思考態度・習慣について理解・評価できる(知識、態度)
3. 自分のライフサイクルのあり方について見つめ直す(態度)

■準備学習(予習・復習)

予習：日頃から倫理・哲学関連の話題に注目し、可能ならば新聞紙を読む。(20分以上)

復習：授業の要点をチェックするとともに、気になる箇所があれば自分で調べてみる。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	導入 現代(日本)人の日常的課題	「人類の宿命的課題」(S.フロイト)とは 臨床心理学者・河合隼雄(「こころの処方箋」)に学ぶ	A(1)-①-7、B(1)-①-1
2	哲学とは 大人とは	哲学における3種類の問い(I.カント) 「大人になることのむずかしさ」(河合隼雄)	A(1)-①-7、B(1)-①-1
3	青年期の発達課題 自立・若さ・青春	「心理的防衛機制」とは何か S.ウルマンのYouth論など	A(1)-①-6～7、B(1)-①-1
4	生きがい論	精神科医・神谷美恵子著「人間をみつめて」	A(1)-①-6～7
5	幸福、個性、使命	与謝野晶子、D.ハマーショルド、澤瀉久敬	A(1)-①-6～7
6	人類と自然のあるべき関係とは	現代における環境倫理の草分け、R.カーソンの問題意識	A(1)-①-6～7
7	望ましい文明、世代間倫理とは	明治期日本の環境運動、環境倫理の三本柱	A(1)-①-6～7
8	環境倫理の新展開	「ディープ・エコロジー」(A.ネス)の主張と自然界における「多様性」をめぐる問題	A(1)-①-6～7
9	正義とは何か(1)	アリストテレス、J.S.ミル他	A(1)-①-6～7
10	正義とは何か(2)	J.ロールズ、R.ノージック、M.サンデル他	A(1)-①-6～7
11	フェアネスとは何か	O.ボルノウ、M.ミード他	A(1)-①-6～7
12	人間の偉大と悲慘、道徳の根源	B.パスカル「パンセ」	A(1)-①-5～7
13	レポートへのフィードバック(1)	学生レポートにコメントを加え質問に答える	A(1)-①-5～7
14	レポートへのフィードバック(2)	学生レポートにコメントを加え質問に答える	A(1)-①-5～7
15	補遺		

■授業分担者

川北 晃司(No.1～15)

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：質問等に対しては第13回授業からまとめて回答する。

成績評価方法：第2回から第12回の授業後ごとに提出するレポート全11回の合計点で評価する(レポート100%)。

■教科書

指定なし。

■参考書

授業中に紹介します。

■その他

オンライン・オンデマンド形式の授業です。